



▲ビオトープの除草作業を元気いっぱいに行う子どもたち。生き物や植物を観察できるこのスポットは、遊びだけでなく、貴重な学習の場となっています。

▶花壇やフェンスの花を手入れするボランティアの方々。鉢は、ペットボトルを切ったりサイクル、道行く人から、「お花畑の中に学校があるみたい」と声をかけられます。

活動を支える地域ボランティア 自由な時間に来て自主的に作業

このような、「自然・生き物との触れ合い」を教育の柱とする日進小学校の活動を支えているのは、地域ボランティアです。その数は何と、延べ140人！環境ボランティア誕生のきっかけは、四方のフェンスに取り付けてあるフラワーポットです。栽培場所が広範囲で水道場からも遠く、花の維持が大変な様子を見て、近所の方々

が自主的に水やりを行ったのが始まりでした。水やりは、毎日朝夕2回。この活動を続けるうちに、理解し協力してくれる人の数も増え、地域の触れ合いが深まっていきました。「私たちは皆、花や緑が大好きです。フェンスが花でいっぱいになるのは、ボランティアとしての誇りです」と話します。そして、保護者や地域の方の間にも活動が広がり、平成16年には、さまざまなボランティアグループが誕生しました。たとえば、除草、種まき、植え替えを行う「環境ボランティア」のほ



▲子どもたち、先生、ボランティアの方々が「ビオトープ」の入り口に集合。生き生きした、明るい表情が印象的です。
▲平成21年度「全日本学校関係緑化コンクール」の受賞式。校長先生を挟んで石川重雄先生(左)と、玉串栄二先生(右)。

PEOPLE x PEOPLE

ピープル×ピープル

140人を超える地域ボランティア！ 学校づくりからまちづくりの輪に発展

さいたま市立
日進小学校

今回のPEOPLE x PEOPLEは、小学校がステーションです。さいたま市立日進小学校を訪ね、地域と学校、保護者が一体となって取り組む緑化運動、そしてまちづくりへと繋がる活動についてうかがいました。

自然を復元した「ビオトープ」で 植物や野鳥、虫たちと触れ合う

皆さんは、「ビオトープ」という言葉をご存知ですか？「ビオトープ」とは、「野生生物の生息空間」という意味です。都市の中に植物や昆虫、鳥や魚などが共生できる場所を復元するもので、近年では、河川敷や公園をはじめ、学校の校庭やビルの屋上などを利用した、小さくさまざまな「ビオトープ」が誕生しています。

さいたま市立日進小学校が「学校ビオトープ」を設営したのは、平成11年。日進小学校は、JR川越線の日進駅前通りに面した市街地に位置するため、

か、生物の保護をする「かぶと虫ボランティア」。中でも頼もしいのは、約40人の保護者による「おやじの会」です。毎月1回、先生もいっしょに参加して、親子で土運びを行い、ビオトープ周辺の道の杭打ちや木道作りなど、主に力仕事を担当しています。

取材は、残暑の日差しが強い午後。10人以上の「環境ボランティア」の方が訪れて、キビキビと水やりや草むしり、ゴミ拾いなどを行っていました。保護者だけでなく、中高年の方も多くみられます。驚くことに、ボランティアのシフトはいっさいなし。特別な作業以外は、好きなときに来て好きなだけ活動をしています。「作業が終わると、きれいになって気持ちがいい！」「心が沈んでいるときでも、学校にくと元気になります」と楽しそう。継続の秘訣は、無理のない活動、そしてそれを陰で支える先生達のサポート。いっしょになって汗を流す先生と子どもたちの元気な様子に心を動かされ、それが励みとなり、心をひとつにした連帯感が繋がっているのです。

「お時間のある時にはぜひ、こちらに立ち寄って花やビオトープを楽しんでください。学校が、地域の触れ合い

学区内には自然や生き物と触れ合える場所がほとんどありませんでした。そこで、子どもたちが自然のサイクルを体験したり観察したりできる場として、敷地の一角約500㎡に雑木林や池を設けて自然を呼び戻したのです。

その後は、野鳥が集まるようリンゴやミカン、カキなど実のなる木、約100本を植樹。さらには虫たちの生活空間や、緑の中で読書や給食を楽しむテラスなどを新設して、ビオトープエリアを約2倍に拡大しました。また、通りのフェンスには、全校児童から集めたペットボトルを使って480個ものフラワーポットを取り付け、季節の花を植えて地域の美化に努めています。

の中心になるようにと願って、この活動に取り組んでいます」と、ビオトープ担当の玉串栄二先生は話します。

「学校ビオトープ」を核として 学校づくりからまちづくりへ

このような地域と学校、保護者が一体となって「学校ビオトープ」の運営や敷地内外の緑化に取り組む活動が評価され、数々の賞を受賞。平成21年度には、「全日本学校関係緑化コンクール」で全国2位に輝きました。

また、昨年から、地域の連携をより深めたいとの思いから、学期に1回ボランティアの方々と昼食会を開催。夏休みには、学校の得意分野を地域に還元しようと、先生達による「日進小講座」も開講しています。さらに今年度は商店街や自治会、子ども会などの会長さんの協力を得て「日進小学校を支える地域の会」を結成。学校という枠を超えた横のつながりに努めています。

下條清校長先生は、このように語ります。「このビオトープを核として、学校づくりからまちづくりへと、地域への輪が広がっていくこと。これが、私たちの何よりの大きな目標です」。

まちづくりに取り組む人々からのメッセージを伝えるページです。

「PEOPLE x PEOPLE」は、人と人が出会う交差点。